

新興国株式市場の動向と見通し

情報提供資料

続落する新興国株式市場

- 2015年の世界の株式市場は、先進国株式が-0.9%とほぼフラットで推移したのに対し、新興国株式は-14.9%と大きく調整しました。また、2016年に入ると、年初から中国経済に対する懸念の再燃や原油相場の急落など世界的にリスクオフ相場の様相が強まり、新興国株式は前年末比-12.7%と続落しています(1月20日現在。いずれも米ドルベース)。
- 現在の新興国経済に影を落としている主な外的要因は、原油価格の急落、中国の製造業の減速、その結果としてのコモディティ価格の下落です。原油価格急落は、特に中東諸国に悪影響を与えています。原油以外のコモディティ価格下落は、主にラテンアメリカと南アフリカに影響を及ぼし、中国の製造業減速は韓国の製造業をはじめとするアジアの多数の国に直接的な悪影響を与えています。

新興国及び先進国株式の推移



今後の見通し

- アジア諸国の中でも、インドのマクロ経済環境は、過去5年間見られなかったほど改善しており、新興国の中でも最も見通しが良好と見ています。純輸入国であるため、原油とコモディティの価格下落は経常赤字を縮小させており、中央銀行は金利を引き下げることができます。経済と企業収益は予想されたほどは加速していませんが、政府は近年にない働きを見せているため、当社は楽観的な見方を継続しています。
- 中国は、投資主導型から消費主導型への転換、また統制経済から自由市場経済への2つの構造改革を続けています。サービス・セクターは順調に成長してきましたが、2015年央あたりで投資の成長に後れを取り始めました。同時に、雇用と消費も減速が始まりました。政府は引き続きGDP成長率の減速が及ぼす影響の管理に努めていますが、そのために当局の発言は増加し、予想外の政策措置やそれに伴う金融市場のボラティリティ上昇が発生する可能性があります。
- 中長期的な観点では、中国と新興国を世界経済の牽引役として依然として前向きに見ていますが、短期的なトレンドは軟調であり、特に中国に対する見通しを控えめにしています。中国の消費関連企業の多くは、2016年1-3月期の見通しを引き下げてきています。しかし個人支出は、スポーツ衣料やオンライン関連など好調が続く分野が散見され、変化するトレンドや地域経済の中でも個別企業の投資機会は依然として少なくないと言えます。
- 国営企業については、中国および新興国全体で慎重な見方を維持しています。国営企業は効率的運営が意図されていないことが多く、株主利益の最大化以外の義務を負っていることが多いため、投資対象としての魅力は劣ります。各地域、各業種において、国営企業より民間企業が魅力的ですが、特に中国では国営企業に対する政府の露骨な関与が引き続き懸念され、ブラジルでは大規模な国営エネルギー企業が汚職スキャンダルに巻き込まれました。インドでは、国営銀行と比べて民間銀行の方が不良債権の減損で先行しており、今後良い成果を上げられると思われます。
- 新興国株式のPERは10.3倍となり(今期予想、1月20日時点)、歴史的にみても、また先進国との比較でも、割安な水準にあります。しかしながら、現在の新興国市場は、個別の国の景況感格差が大きいこと、また企業間の多様性が大きいこと等を留意する必要があるため、選択的なアプローチが有効と考えています。